日本のたたら技術を現代に伝える

日刀保たたら火入れ式

▲「初種」投入の様子

国の選定保存技術に認定され、全国で唯一日本刀の原料となる玉鋼を生産している「日刀保たたら」で一月二十三日、関係者約三十人が出席して操業の安全祈願と火入れ式が行われました。

日本古来の「たたら吹き」は、昭和五十二年十一月に復興されてから、今回で通算百二十五代目の火入れとなります。

操業責任者である村下の木原明さん、渡部勝彦さんが「初種」と呼ばれる最初の砂鉄を炉の中に入れ、この後は三昼夜にわたり炉から吹き上がる火の色を見ながら炉の状態を調節。村下が砂鉄、村下養成員が木炭を三十分ごとに入れ、三日間で砂鉄十トン、木炭十二トンが投入されました。

二十六日の早朝には、およそ三・五トンの鉧（ケラ）と呼ばれる鉄塊が取り出されました。この内二～二・五トンが玉鋼と呼ばれる純度の高い良質な鋼で、さらに四ヵ月かけて品質ごとに選別され、六月ごろから全国約二百五十人の刀匠へ供給されます。

今回の操業は、二月八日まで三代続けて行なわれ、県知事や全国各地から大手企業の社長幹部、多くの報道陣も訪れ、日本の伝統技術を見守りました。

十周年記念大会

地球環境を考える町民のつどい

一月二十七日、横田コミュニティセンターで、今年十回を迎える「地球環境を考える町民のつどい」が奥出雲町手をつなぐ女性の会（赤水照子会長・会員九百五十七人）主催で行われました。

十周年記念大会を祝い、多くの来賓から祝辞があり、赤水会長から十年歩んでこられたお礼と「これからも後世に美しい自然を残すため、各団体、企業、町民の皆さんと手を携えて環境問題に取り組んで行きたい」と挨拶がありました。

続いて、これまでの活動発表としてスライドを使い、ゴミの減量化やリサイクル活動、買い物袋持参運動の取り組み、水質浄化や花づくりなどを「十年のあゆみ」として発表。

また、メンバー二十人による古着などをリフォームして作った洋服のファッションショーが行なわれました。

特別公演として平成十七年愛知万博で披露された、松江市の児童の皆さんによるミュージカル「あいと地球と競売人」が上演され、子供たちの迫真の演技に会場からは大きな拍手が送られました。

▶ミュージカルの様子

▲ メンバーによるファッションショー

会場に集まった約四百人の参加者は、環境問題への取組みの大切さを再認識する良い機会となりました。

世界は地球温暖化の危機にあり、誰もが協力し世界規模で環境について考えることが必要です。

みんなの地球を守るため、自分の身の回りから、自分の出来ることから始めましょう。